（法第２８条第１項関係）

令和元年度事業報告書

平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日まで

認定特定非営利活動法人キャリア・デザイナーズ

1　事業実施の成果

平成から令和へと新しい元号へと変わった当年度、主に次の事業を実施した。

(1) 郡山市受託事業「多様な働き方支援事業」
(2) JT（日本たばこ産業）NPO 助成事業「若者自立総合支援事業」
(3) 「生きづらさを感じているニート・ひきこもり社会包摂事業」(社会参加の一環として、シニア・ボランティアとともに共同の軽作業、交流会の実施)
(4) こおりやま子ども若者ネットへの参加
(5) 郡山市の農福連携推進モデル構築事業の参加
(6) 自主事業（ジョブトレーニング、御用聞き等）

以下、具体的に述べる。

(1)　郡山市事業「多様な働き方支援事業」

同事業は、フリーター、若年無業者及び就労困難者を対象とし、社会参加と生活基盤の安定のため就労支援を行うことにより、個人の適性や意欲に応じた多様で柔軟な働き方ができるよう職業的自立に結びつけることを目的にした事業である。

当法人としては、2 年目の受託となり、初年度の経験を生かして事業を実施した。今年度は、3 回にわたって関係機関との意見交換会にも参加して当事業の認知度を上げるとともに、支援に向けての連携の土台を作ることができた。

相談では、今年度より、郡山市在住だけでなく「こおりやま広域圏」に住んでいる方も対象となった。相談後、当事業への参加が妥当と判断した方（実人数 39 名）について、定期的なカウンセリング、就労体験（8 つの事業所で実施）、就労準備のための講座（通称「エンカレッジ講座」、パソコン、ビジネスマナー、コミュニケーションのワークを実施）、就労実践支援（履歴書作成、面接応対）を実施した。中長期的な視点で、定期的・継続的に活動を提供することを意識して行った。

参加者のアンケートでは、

■カウンセリングについて（自由記載）
・話を聞いてもらって自分の中で悩みが少し晴れた。
■講座（パソコン、ビジネスマナー、コミュニケーション等）について（自由記載）
・パソコンについて「こうやれば良いんだと便利なところがわかり、良かったです。」
・ビジネスマナーについて「敬語ドリルは少し難しかったですが、講師の教え方が分かりやすくて良かったです。」

・コミュニケーション・ワークについて「みんなでお話するのに苦手意識がありましたが、今はそんなことはなくなりました。」

■就労体験について（選択式、複数回答）

・コミュニケーションが以前より取れるようになった　70%

・生活リズムが整った　43%

・体力がついた　43%

・前向きになった　43%

といった回答があった。

(2)　JT NPO 助成「若者自立総合支援事業」

郡山市内外の方を対象に事業所でのジョブトレーニングを実施。同助成により OJT によるジョブトレーナーの育成をすることもできた。①ジョブトレーニング、②大規模セミナー、③保護者会&小規模セミナーを実施した。

①　ジョブトレーニング

郡山市やその周辺の 8 つの事業所にて、ジョブトレーニングを年間 45 日、実人数 22 名（延 120 名）が参加し実施した。併せて、OJT によりジョブトレーナー育成も行った。

②　大規模セミナー

令和 2 年 2 月 15 日（土）開催。　79 名の参加があった。生活困窮者の支援活動を長年携わっている稲葉剛氏（一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事、立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科特任准教授）を講師に迎え、自立のために住居の重要性について講話していただいた。

アンケートでは、

・ハウジングファースト、若者困窮者への先生の取組みの実情を知り、学ぶ機会となりました。福祉の現場で形をかえつつ自分が出来ることから取り組んでいきたい

・住まいの問題は隠れているけれども、根本的なことなので就労、お金の問題と合わせて考えていかないといけないと思います

などの意見があった。

③　保護者会&小規模セミナー

2 回開催（令和元年 9 月、令和 2 年 2 月）実施した。

第 1 回目は、講師に奥山美希氏（精神保健福祉士）を講師に招き、子とのかかわりあい方について学んだ。

第 2 回保護者会では、当法人卒業生で、現在、社会人として福祉団体の職員として働いている方を招き、「キャリア・デザイナーズに通う前、通っているとき、そして現在」について、率直に話していただいた。

保護者会・小規模セミナーに参加した方のアンケートでは、

（第 1 回参加者）

・講話の中でコミュニケーションのとり方の難しさについて勉強になった。
・色々な方のお話を聞けた事や、子供が実際に活動している所を写真で見ることができた事がとても良かったです。
（第 2 回参加者）
・気持ちが楽になった。経験者の方の話を聞いて希望が持てた感じがします。

またキャリア･デザイナーズに通うようになってどのような変化があったかという問いに対しては、
・以前より気持ち的に余裕をもって子どもと接することが出来るようになりました。
・（子どもの）表情が明るくなった。
との回答があった。

(3) 「生きづらさを感じているニート・ひきこもり社会包摂事業」
（パブリックリソース財団「ふくしま未来基金」助成）

ひきこもり・ニート状態にある方が、一歩を踏み出して相談をした後に、実践的な活動に入る前に、安心した環境の中で他者との交流を深めながらスムーズに社会参加できるようになることを意図し、次の活動を行った。

① コ・ワーク

相談をした直後の方、通い始めの方、他者と話す事に不安を持っている方などを対象に、シニア・ボランティアらとともに事務所内で軽作業を行う活動を行った。相談をしたものの次に何をすれば良いのか不安に思っている方も多い。ボランティアの方と一緒に軽作業を楽しくすることで、社会とのつながりや通所習慣の確立による社会参加を意図して実施した。同事業に参加した後、より実践的な活動（講座やジョブトレーニング）に参加する方も多くいた。

② 交流会（1 日カフェ）

季節ごとに、花見会、バーベキュー会、1 日カフェ、クリスマス会の実施等といった交流会を行った。6 月からは、パブリックリソース財団「ふくしま未来基金」助成により実施した。バーベキュー会やクリスマス会といったイベントでは、基本的に利用者（メンバー）が司会、ゲーム、調理の各班に分かれて担当した。有志でイベントの 1 か月前ぐらいからミーティングを重ねて準備をした。ボランティアや協力者を招き、会食やゲームをして楽しく交流をすることができた。交流会当日や準備を通じて、他者と協力する大切さを実感し、協調性、社会性を養う機会となった。

1 日カフェでは、三春町にあるブリトマート内「A_labo」をお借りし、カフェのトライアルを行った。将来的に、トレーニングの場としての自前のカフェも視野に入れつつ、接客や調理を楽しく協力して行うことができた。

(4) こおりやま子ども若者ネットの参加

郡山市の子どもや若者を支援している団体・個人が集まってネットワークを構築している。今年度は、当法人が事務局の一つを務めた。原則 1 か月から 2 か月に 1 回、車座会議を行うと同時

に、設立1周年記念のシンポジウムを開催した。同シンポジウムでは100名の参加があった。宮本みち子氏（放送大学名誉教授、千葉大学名誉教授）の講話を聴いたり、3つの分科会（居場所、就労、不登校・フリースクール）を行って意見交換を行った。

(5)　郡山市の農福連携推進モデル構築事業の参加

郡山市事業の「農福連携推進モデル構築事業」を受託した「公益財団法人フィランソロピー協会」の協力団体として、農福連携事業に参加した。農業と福祉事業所の間のコーディネートのサポートのほか、当法人の利用者が実際にジョブトレーニングの一環として農業に参加する機会もあった。郡山市で農福連携事業が根付くように今後も協力できればと考える。

(6)　自主事業

①　「御用聞き事業」

地域の高齢者世帯など地域で困っているご家庭のご依頼に応じて作業をし、ニートやひきこもり経験者の社会参加・自立支援の一環として行っている。1年目は、損保ジャパン興亜福祉財団の助成により、2年目は郡山市協働政策提案制度の事業として、そして3年目となる本年度は、クラウドファンディング等を通じた寄付、また受益者の負担による自主事業によって実施した。今まで実施したお宅からの依頼や、連携町内会からの紹介、口コミにより、高齢者のみ世帯などで困っているお宅の困りごと（草むしり、物の運搬）のお手伝いをした。
住民の方からは、「老人のみの世帯で作業をしてもらって本当に助かる」、「また来年も頼みたい」との感想があった。

参加した若者らニート・ひきこもり経験者からも、「達成感や充実感を得られた」「感謝されてうれしかった」という答えがあった。「御用聞き事業」を楽しみにしている若者も多い。高齢者や町内会役員の方を始めとする地域の方との温かい交流を通じて、若者の社会参加・自立支援の一歩として、地域に根差した活動を展開することができた。

②　ジョブトレーニング

郡山市事業や民間助成の規定回数を超えてトレーニングを積みたい方向けに、自主事業でジョブトレーニングを実施した。地元企業の協力を得て、ジョブトレーナーが利用者を引率して現場に赴き、原則チームで共に作業を行う形でのトレーニングを行った。1日に2〜3班に分かれてそれぞれ現場に行く形で行った。自主事業として、年間436回、参加者936名（実数35名）であった。中長期的な視点で、継続的に参加することで体力や日常生活リズムの改善、他者と協力して活動することに慣れる、働いていく上での自信や自己肯定感の向上につなげることができた。ジョブトレーニングと講座やカウンセリングがそれぞれ連動した形で行うことができるよう意識した。ジョブトレーニングで明らかになった課題を、講座で取り扱ったり、また、カウンセリングの際に自己の考えを深める材料とするなど、お互いに相乗効果がでるようにした。

③　社会参加・居場所としての活動（エンカレッジ講座・午後の部）

原則毎週木曜日の午後に、ゲームやレクリエーションをする活動を行った。午前中に、パソコン、ビジネスマナー、コミュニケーションなどの就職準備のための講座を行った後で、希望者を

対象に、午後にゲームやレクリエーションをする講座を実施した。卒業生がアシスタント役として参加したり、雑学コーナーを担当する姿も見られた。他の人とともに一緒に過ごし、楽しく場を共有することに慣れる機会となった。

【総括】

上記の活動を1年実施して、今年度の就職決定者は4名だった。1年もかからず就職が決まった者もいるが、中には、就労まで数年もかかる場合があり、息の長い支援が必要であることを改めて感じることとなった。就職した後も就労定着のサポートを随時行った。当法人の活動を経て就職が決まった方が、仕事の休みの日に事務所を訪れたり、イベントのボランティアとしてお手伝いをしてくれる姿も見られるようになった。仕事の合間を見て参加することが、結果的に就労定着の点でフォローアップとしての側面としても機能しているように感じる。さらに、現在、通所している利用者にとっても「卒業生」の存在は、ロールモデルとして大きな刺激となっている。

今年度、就職決定まではいかなかった者も、季節の移り変わりの時期などで体調の好不調の波がある者も見られたが、各人が自立に向けて一歩ずつ前進する姿が見られた。年間を通じて、当事者・保護者への相談・カウンセリング、保護者会の開催を通じて、対象者本人のみならず、保護者の不安軽減、対象者本人の自立へのサポートをすることができた。また、ジョブトレーナーが引率することで、安心した環境で充実したトレーニングを実施することができた。そして、セミナーの開催を通じて、若者が置かれている状況や、若者の心情について一般の方や企業の方に理解を深める機会となった。

●シニア・ボランティアについて、

対象者が相談後に実際に活動に参加する際に、負荷の少ない安心した環境での導入がとても大事になってくる。今年度も、事務所での内職作業や交流会などでボランティアのご協力を得ることができた。特に、人生経験が豊かなシニア・ボランティアとともに事務所での軽作業をしながら温かい交流をすることで、活動に定期的に参加し、次に実践的なトレーニングに移行できる者が見られた。

●地元事業所のご協力

地元企業の協力は、支援活動を展開する上で欠かせないものである。就労体験の受け入れ先、就職の受け皿などの面でご協力いただいている。また、令和2年2月には、福島県中小企業家同友会郡山地区との共催により、「若者の自立を考える親と地域のためのセミナー」（JT NPO 助成）を開催することができた。地元の事業所のご協力により、充実して活動を展開することができた。さらに地元企業の経営者で構成され、月1回、定例会をおこなっている「福島県みらい創生会議」の皆様にも、折に触れ多大なご協力をいただいた。

次年度も、本年度の事業と今までの経験を踏まえ、当事者に寄り添いつつ伴走者としてより良い支援活動を実施していきたい。

2　事業の実施に関する事項

I. 特定非営利活動に係る事業

（1）就労に係る相談業務及び就労支援活動

事　業　名 （定款に記載した事業）	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額 （単位：千円）
（1）就労に係る相談業務及び就労支援活動 ①　相談業務	郡山市多様働き方支援事業のうち、対象者の把握及び就労相談に関すること、及びキャリアカウンセリング 郡山市及びこおりやま広域圏内のフリーター（15歳から39歳)、若年無業者（15歳から39歳)、就労困難者（40歳から59歳）の社会参加や就労に関する総合相談及びカウンセリング	(A通年（随時） (B)事務所 (C)職員3名（キャリアコンサルタント）	(D) 郡山市及びこおりやま広域圏内の対象者及びその家族 (E)年間 260 回（インテーク相談70回、カウンセリング 190回)、実人数 58名	
	相談（自主事業）郡山市及びこおりやま広域圏以外の対象者（ニート、フリータなど）	(A)通年（随時） (B)事務所 (C)職員3名（キャリアコンサルタント）	(D)郡山市内在住の対象者及びその家族 (E)対象の若者、就労困難者	
	CADS&CADI を使用したカウンセリング業務 管理職のキャリアデザインについてのカウンセリング ㈱エフコム主催	(A)令和 2 年 2～3月 (B)㈱エフコム本社会議室 (C)職員1名（キャリアコンサルタント）	(D)対象事業所の管理職 実施回数32回 (E)面談人数 16名	
②　講座	「就職活動の実施に向けた準備段階の支援」(コミュニケーション、パソコン、ビジネスマナー等の講座（エンカレッジ講座）) 郡山市事業（6 月～翌年 3月)及び自主事業(4～5 月)	(A)通年　原則毎週木曜日開催　年間41日実施 (B)公益財団法人安積歴史博物館、当法人事務所 (C)スタッフ 3 名（キャリアコンサルタント3名)、外部講師2名	(D) 対象の若者、就労困難者 (E)毎回人数 6名～10名　実人数22名 延べ318名参加	

	当法人利用者向けのパソコン特別講座 （word,Excel,Web サイト作成、css など）	(A)通年 （毎月第 2、4、5 土曜日） (B)当法人事務所 (C)外部講師 1 名	(D)対象の若者 (E)毎回 2～3 名程度参加	
	シニアの英会話勉強会	(A)通年（月 3 回月曜日） (B)当法人事務所 (C)職員 1 名	(D)対象の若者地域の高齢者等 (E)毎回 6～8 名程度参加	
③ ジョブトレーニング	「郡山市多様な働き方支援事業」内の「就労困難者（40 歳から 59 歳で、就労経験の少ない者又は長期に渡り不安定就労を繰り返す者）の就労体験」	(A)通年 1 日につき 3～4 時間程度 (B)就労体験受入事業所 6 社 (C)職員 6 名	(D)対象の就労困難者 (E) 実人数 6 名（延べ 63 名）参加	
	JT NPO 助成「若者自立総合支援事業」内「就労体験（ジョブトレーニング)」	(A)通年 1 日につき 3～4 時間程度 実施日数 45 日 (B)就労体験受入事業所 8 社 (C)職員 7 名	(D)対象の若者 (E) 実人数 22 名（延べ 120 名）参加	
	就労体験（ジョブトレーニング）（自主事業）	(A)通年 （週 4 日程度） 1 日につき 3～4 時間程度 年間実施回数 436 回 (B)就労体験受入事業所 8 社 (C)職員 8 名	(D)対象の若者 (E) 毎回 1～4 名程度参加 延べ参加人数 936 名（実数 35 名）	
	コ・ワーク事業 無業者の社会参加、通所習慣を身に着けることを目的に、事務所での内職などの軽作業をボランティアの方と行う活動を実施。 4～5 月は自主事業、6 月から翌年 3 月までは、パブリックリソース財団「ふくしま未来基金」助成により実施。	(A)通年、原則週 1 回、年開 49 回実施 (B)事務所 (C)職員 2 名	(D)対象の若者 389 名（実人数 35 名)、地域の人々、ボランティア (E)毎回 8～10 名程度参加	

	御用聞き事業 高齢者のみ世帯など地域の困りごと世帯などの除草・お宅の不要物の運搬などの活動、 （ニートひきこもりなどの無業者の社会参加、地域の方との交流、自己肯定感向上を目的）	(A)通年　年間 27 回(クラウドファンディングの企画により 12 回、寄付による自主事業として 15 回実施）実施 (B)郡山市内 (C)職員 5 名	(D)対象の若者、地域住民 (E)当法人の利用者のべ 74 人（実数 16 人）	
④　受入事業所開拓	就労体験受入先事業所開拓	(A)随時　定期的 (B)受入企業先 (C)職員 2 名	(D) (E)対象の若者　不特定多数	
⑤　交流会	全体交流会（当法人利用者、職員、ボランティアの方が集まり、交流を深める会 花見、バーベキュー、クリスマス会など）	(A)通年 実施回数 6 回 (B)地域の公民館など (C)職員 8 名	(D)対象の若者のべ 79 名(実人数 28 名)、地域の人々、ボランティア (E)毎回 20～35 名程度参加	
	エンカレッジ講座（午後） ゲームやレクリエーションなどを通じた集団活動や人馴れの活動	(A)通年　週 1 回 2 時間開催 実施回数 45 回 (B)安積歴史博物館、当法人事務所 (C)職員 4 名、外部講師 1 名	(D)対象の若者、 (E)毎回 7～15 名程度参加	18,393

(2) 支援者育成及び地域社会との連携事業

定款の事業名	事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額（単位：千円）
(2)支援者育成及び地域社会との連携 ①支援者の育成･啓蒙活動	ホームページ・SNS（Facebook）　更新	(A)随時 (B)当法人事務所 (C)職員 4 名	(D)(E)不特定多数	
	外部向けニュースレター（いっぽ通信）	(A)2 回発行 (B)当法人事務所 (C)職員 2 名	(D)各連携機関約 400 部発送 (E)一般、支援者、就労体験関連企業等	243

② 家族会	保護者会	(A)2回(第1回　令和元年9月21日、第2回 令和2年2月15日) (B)第1回　永盛地域公民館、第2回 小原田地域公民館 (C)職員6名	(D)対象の若者の保護者・家族 (E) 13名（第1回9名、第2回4名）	31
③ セミナー・研修会の実施及び参加	JT　NPO助成「若者自立総合支援事業」内「若者の自立を考える親と地域のためのセミナー」開催	(A)令和2年2月15日 (B)ミューカルがくと館中ホール (C)職員6名	(D)地域住民、対象となる若者、保護者、支援者、企業関係者、行政関係者等 (E)セミナー参加者79名	172
④ 地域社会とのボランティア活動等	「こおりやま子ども若者ネット」の参加　郡山市及びその近辺の子ども若者支援団体のネットワーク	(A)定例会議（車座会議)に原則月1回参加 (B)郡山市内 (C)職員2名	(D)対象の若者、地域住民 (E)同ネット参加者、毎回約15～20名	
	郡山市農福連携推進モデル構築事業への参加（コーディネート業務のサポート）	(A)随時 (B)郡山市及びその周辺 (C)職員3名	(D)対象の若者、農業者、服地事業所 (E)郡山市及びその周辺の農業者、福祉事業所、就労弱者（障害者やひきこもり経験者など）	0

(3) 上記に記載する以外のキャリア形成に係る事業全般

定款の事業名	事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額（単位：千円）
(3)上記に記載する以外のキャリア形成に係る事業全般 ① 心のケアーに係るカウンセリング	・ニートフリーター状態の若者又はその家族の相談窓口の設置(メール、電話、面談等) 就職相談、カウンセリング、心のケアー等を行う) 手段:電話、メール、面談、家庭訪問	(A)通年（随時） (B)当法人の事務所 (C)職員3名	(D)対象の若者及びその家族 (E)郡山市及びその近辺の住民、若年無業者・保護者、当法人利用の若者約37名・保護者	

② 就職に係る相談業務	履歴書作成指導、面接練習等	(A)通年（随時） (B)当法人の事務所 (C)職員3名	(D)対象の若者 (E)当法人利用の若者約37名	0

以上